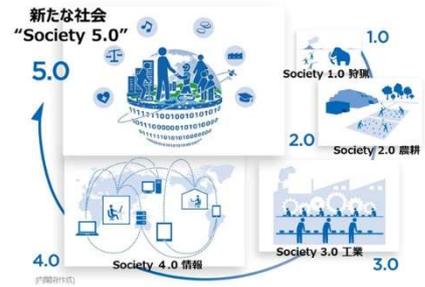


(1) 課題研究の意義

①社会構造は大きな転換点を迎えている

- ・グローバル化・ジェンダーレス化・技術革新・パラダイムシフト
- ・ Society 5.0 : .....社会  
AI や IoT、ロボット、ビッグデータなどをあらゆる産業や社会に取り入れることによりする実現する未来社会。  
→ 便利だけか？不安はないのか？



②予測の難しい時代に対応するため高校生に求められる3つの資質・能力

- ・ ..... : どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。
- ・ ..... : 何を知っているか、何ができるか。
- ・ ..... : 知っていること、できることをどう使うか。  
→ このような資質・能力の育成のために「.....」の果たす役割は大きい。

③探求と探究の違い

- ・ ..... : あるものを探し求めて手に入れようとする。
- ・ ..... : 物事の意義や本質を探って見極めようとする。

④「課題研究」とは

生徒自らが、.....や.....の様々な事象の中から.....を見出し、その課題の.....を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

- ・ ..... : 体験活動などを通じて、課題を設定し、課題意識を持つ。
- ・ ..... : 必要な情報を取り出したり、収集したりする。
- ・ ..... : 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。
- ・ ..... : 気づきや発見、自分の考え方をまとめ、判断し、表現する。

(2) 本校のミッション

① 関高生の高校3年間の最大の目標は？

- ・ あなたの考え : .....
- ・ 答え : .....

② .....の実現のために必要なこと

- ・ 確かな..... : 宿題をこなすのはもちろん、自己の学習課題を克服するために自己解決の方法を身につける。
- ・ 明確な..... : 地域や国際社会の抱える課題を理解し、その解決のために自分に何ができるかを真剣に考える。

③ 一関第一高等学校のミッション

- ・ .....を持って主体的に進路選択し、挑戦し、突破する生徒の育成。
- ・ 地域および社会の諸課題に取り組む.....の育成。

④ SDGs とは

- ・ Sustainable Development Goals : .....
- ・ No one will be left behind : .....
- ・ 2015年～2030年の15年間で、地球上の諸問題に対して人類が取り組むべき行動計画
- ・ 『17の.....』と『169の.....』で構成。

(3) 高志探究 I の進め方

	期間	対象	指導担当	活動内容
フィールドワーク I	4月～7月	高1生	担任・副担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題について「調べる方法」、「深めるためのツールの活用」について実習を通して学ぶ。</li> <li>・地域に関するビックデータ (RESAS) を活用して、地域の現状を分析する方法について実習を通して学ぶ。</li> <li>・フィールドワーク I の事前学習として、地域に関する講演会を聴講し、複数の視点から地域の現状について学び、新たな地域の課題を発見する。</li> <li>・自分の興味・関心のあるコースを選択し、自然科学的、社会的なものの方の見方・考え方はたがせ、現地で人々と交流する中で情報を収集し、多角的な視点から新たな課題を発見し、科学的に解決しようとする態度を養う。</li> </ul>
先行研究調査	8月～9月	高1生	担任・副担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題研究 (探究的な学習)」が「自由研究」や「調べ学習」とどのような違いがあるのか理解する。</li> <li>・課題研究がどのようなステップで行われるのか、課題研究を通してどのような力が身につくのか理解する。</li> <li>・興味・関心に基づいて、具体的に問いを立て、研究テーマの設定理由や研究の目的・意義を明らかにする。</li> <li>・複数の先行研究について調査し、研究方法を考える。</li> </ul>
合同課題研究	10月～2月	中3生 高1生 合同	教科担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望にしたがって班を編成する (高1と中3の混合研究グループができる)。</li> <li>・個人の研究内容を共有し、グループで取り組む研究テーマを設定し、先行研究調査を行う。</li> <li>・<small>おいしょう</small>追証 (先行研究の方法そのままに観察・実験・調査を行い、結果を比較。)</li> <li>・研究成果をポスターにまとめ、全校発表会で発表する。</li> </ul>

- Memo -